

エコ住宅はエゴでは

財団法人 日本ウェエザリングテストセンター
専務理事 坂井喜毅

我々庶民の住宅の壁は、境界線から50cm程度で、隣家の壁から1m程度しか離れていない場合が多い。エコ住宅の話ではないが、昨今の住宅には三カ所給湯器、エアコンの室外機が壁際に必ず設置されている。それに室外機は複数台である。これらから廃熱・排ガス（二酸化炭素）を隣家に向けて排出しているのに隣家の迷惑にはKY（空気読めない）である。真夏には、各家庭が窓を閉め切り昼夜を問わずエアコンを連続運転して人工熱帯夜作りをしている。20年昔は、真夏でも夜半には、涼風を楽しむことが出来たが今は昔である。自分も加害者であるが、左右、後方の3方向からの熱風攻めには閉口している。

これら廃熱・排ガスは横方向でなく、煙突（ダクト）を用いて上方に排出すれば、上昇気流が起り住環境は良くなると思うが、関係者の意見を聞きたい。

最近、エコな生活を錦の御旗にした電力会社とガス会社の販売競争により住宅密集地の住環境は悪化しているのではないか思うことがある。

●まずは、電力会社中心に進められている「エコキュート」である。ヒートポンプで空気中から熱を汲み上げ、90度前後のお湯を作り、貯湯タンクに貯め給湯するシステムである。問題なのは、一年中、冷風を隣家に吹付けるヒートポンプと大きな直方体タンクが境界線目一杯に設置されている。深夜には騒音も気になる。

●次は、エネファームと云われる燃料電池によるコジェネレーションシステムである。純粋な水素であれば排出するのは水だけであるが、化石燃料を用いているので、二酸化炭素・熱を排出するのである。炭化水素から水素を取り出すのは結構複雑な化学反応であ

る。大きさに言えば小さな化学工場・火力発電所と直方体のタンクが境界線の直ぐ傍にあることになる。

省エネルギー機器が良くないと云う積りではない。設置法を工夫しなければエゴであると主張したい。戸建住宅では、家の回りを大

人が支障なく回れる余地がなければならない、これは防災上、風通しを良くするため必要である事が忘れられている。住宅密集地では設置場所の工夫と廃熱・排ガスを排出するサンタクローズを入れるような煙突が必要ではないか？、専門家の方々に機能、美観を損なわない方策を検討して頂きたい。

●最後に、太陽光発電システムの問題である。これは、電力会社が太陽光による電力を料金の約2倍で購入する一方、その分広く薄く負担するのである。太陽光発電システムを保有しない人は、高めの電気料金を払うだけである。太陽光の電力は、電気自動車の充電に利用すると良いのではと考えます。

住宅は、意匠を凝らし耐久性・美観のために壁、屋根に塗装が施されて完成する。しかし、完成後に種々の設備を家に張付けることは、美観を損ねるだけでなく、設備と壁・屋根の間に湿気が溜まり易くなり、寿命にも影響すると思われる。また、家を長持ちさせるための塗り替えが困難となります。

本物の省エネ・長寿命住宅を実現させるためには設置者を含めた関係者が努力する必要があります。

